

## <令和8年3月定例記者会見>

### 1 開催日時

令和8年3月11日（水）午前10時30分～午前10時50分

### 2 場所

滝沢市役所 庁議室

### 3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、岩手日報社

### 4 発表事項

冒頭、東日本大震災から15年の節目を迎えるに当たり武田市長から挨拶があった。

#### (1) 岩手八幡平歯科医師会との災害時協定について（防災防犯課）

本市では、3月12日（木）に岩手八幡平歯科医師会と災害時の歯科医療救護活動に関する協定を締結します。

近年、地震や風水害をはじめとする自然災害の頻発や規模の拡大に伴い、一層迅速かつ包括的な災害対応が求められるようになっております。

特に、避難生活を強いられる被災者の健康管理は、多様化・複雑化するニーズに応える必要があり、医療面だけでなく口腔ケアの重要性が認識されております。

本協定により、災害時に歯科医師会の専門的な知見と技術を活かした歯科治療が可能となり、傷病者への応急処置や収容歯科医療機関への搬送等、被災者の健康被害の軽減や避難生活の質の向上が図れるとともに、地域の医療体制全体の耐災害力を高めることが期待されます。

本市は今後も、この協定を契機に岩手八幡平歯科医師会をはじめ関係機関と連携し、訓練や情報共有を促進しながら、災害対応力の更なる向上に努めてまいります。

#### (2) 岩手県交通株式会社との災害時協定について（防災防犯課）

本市では、3月13日（金）に岩手県交通株式会社と災害時における電気バス等の支援に関する協定を締結します。

近年、台風や大雨、地震といった自然災害がますます甚大化し、対応が一層困難になっている状況にあります。こうした中、市民の安全を守り迅速かつ的確な避難支援や物資輸送を実現することは、自治体の重要な責務であると考えております。

本協定により、災害時に岩手県交通株式会社から電気バス及び運転士の派遣をいただくことで、被災者の安全な避難や地域の復旧支援に活用できる体制が向上します。また、電気バスは、クリーンエネルギー車両であるため、災害時でも環境負荷が低く、静音性にも優れており、市民の安全・安心な移動手段として最適です。

なお、備え付けのUSB端末からスマートフォンの充電（約1,500回フル充電）が可能であり、車内も広く一時的な避難所としての運用も期待できます。

本市といたしましては、岩手県交通株式会社をはじめ関係機関との連携をより一層深め、災害時における支援体制の構築に努めてまいります。

#### (3) クマ出没情報アプリのリリースについて（農林課）

本市のクマ目撃情報は、市ホームページに文章で記載することで周知を行ってきま

したが、市民の皆さまから「具体的な目撃場所を知りたい」「もっと早く情報がほしい」との要望を受けてきました。

そこで、目撃した方が、マップ上に情報を登録できるクマ出没情報アプリを導入しました。利用開始は、3月16日（月）午後3時からとなります。市の公式LINEから入力、閲覧することができますので、市民の皆さまには積極的に活用していただきたいと思います。

## 5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：岩手県交通との協定締結に至った経緯を教えてください。

防災防犯課長：滝沢営業所に電気バスが2台配備され、活用できる方策はないか、岩手県交通に伺い、相談しました。スマートフォンを充電できる装備があるなど、災害時に活用できるということで、協定締結に至りました。

記者：他に県内市町村での協定締結例はありますか。

防災防犯課長：電気バスにかかる協定は県内初と聞いています。

市長：電気バスに実際に乗車してみましたが、静かで、車内が広いという感想を持ちました。USBポートからスマートフォンの充電ができ、避難者にとっても必要なことであります。避難誘導が多くなる場面があればそこでも一緒にお手伝いできることがあるものと考えています。

記者：市長に伺います。クマ発見アプリについて、最近の市内出没状況を踏まえ、市民の皆さんにどのように活用してもらいたいのですか。

市長：年明けの発見例は5件と未だ少ない状態ではあります。しかし、もっと早く、場所などもっと詳しく知りたいというお声をいただいていたので、アプリを活用いただくことで、早く情報を知り、子供の安全な送迎や、自宅周辺で発見された時の不安感の解消にもつながるものと考えています。これから市民の皆さんに周知を図りながら、アプリの運用に努めていきたいと思っています。

記者：LINEに登録をする必要があるということで、より多くの市民の方に登録してもらおうと、その分効果が出てくるということになるのでしょうか。

市長：LINEで繋がっていただくことが一つの段階にはなりますが、市でも、クマ出没情報だけでなく、様々な情報を発信しています。クマ出没情報も含めて、市の情報を迅速で確実に発信するツールとしてLINEの活用を進めていきたいと考えています。

## 6 その他記者からの当日質問

記者：冒頭に市長もお話されていましたが、本日は東日本大震災から15年ということで、内陸避難者の方もいる中、風化も叫ばれる中で、教育面など、市としての向き合い方や方向性がありましたら、お伺いします。

市長：滝沢市に避難された方のご家族には、亡くなられた方や、まだ発見に至っていない方もいらっしゃるのだと思います。まずはそのような方々に寄り添っていくことが市としての役目だと思っております。本日はトーサイクラシックホール岩手にて盛岡広域8市町合同で追悼式を行います。まずはこの東日本大震災の記憶を風化にさせないように我々も行動していかなければならないと思っております。併せて、今後も、災

害にあった時は迅速な行動を心がけてもらいたいと思っております。本日の案件でもありましたが、災害協定の締結などの積み重ねが市民の安心安全につながっていくものと思っています。いつ起こるかわからない自然災害について、自分の命は自分で守ることや、家族との情報連絡のあり方など、普段から気を付けて生活していくことは大切なことだと思っています。あの日の記憶をしっかりと心にとめながら、被災地や被災者の皆様の歩みに寄り添っていく、そういった日になれば良いと考えています。滝沢市一体となって思いを馳せながら、今後の岩手県の歩みに尽力できればと思っています。

記者：滝沢ストリートフェスティバルについて、改めて市道向新田線開通の意義についてお聞きしたいと思っています。

市長：中心拠点開発について、ここまで進んでまいりました。また、信号もつき、供用開始となります。今回、イベントでは伝統さんさ踊り団体の皆さんが道路上での演奏を行います。これは今までもなかった試みであります。道路供用開始に合わせて、中心拠点開発への期待、賑わいへの期待の高さは日々感じています。一つの弾みとして、この開通イベントでは、市民の皆さんと風景も併せて確認しながら盛り上げていきたいと思っております。特にも、この道路から見る岩手山の姿はとても綺麗です。様々なブースも用意しておりますので、まずはイベントをしっかりと成功させたいと思っております。この後も、伊徳をはじめ、関係する商店の皆さんとともに、A工区だけでなく、B工区、C工区と弾みを付けながら、市民の皆さんにお伝えし、しっかりと盛り上げていきたいと考えています。

記者：中心拠点開発と道路の位置付けとしては、中心拠点開発を盛り上げていく上で欠かせない要となるような存在の道路という理解でよろしいでしょうか。

市長：先ほどもお話しましたが、この道路を真っ直ぐ走ってきたときに、岩手山が目の前に見えてきます。本当に、滝沢市の中心、そして岩手山の裾野に広がる大地だということを滝沢市民の皆さんもしっかりと確認できると思っています。岩手山は現在、雪解けが進んでいますが、山を見上げる時間が増えるのではと感じています。イベントでは、山からの恩恵、我々が暮らすこの地域というものを、もう一度市民の皆さんにも感じていただけるひと時であると思っています。また、伝統さんさ踊り団体の皆さんに、演技を披露いただくということは、この地に暮らしがあること、伝統文化が様々なこと、そして、より市民の皆さんと一体となってこの中心拠点開発を盛り上げていく一つのステップになれば良いと感じています。まずは、この中心拠点開発を目で見て、肌で感じて実感していただければと考えています。